

令和2年度 学校経営計画に対する中間評価報告

石川県立金沢商業高等学校

No. 1

重点目標	具体的取組	主担当	現状	評価の観点	実現状況の達成度判断基準	判定基準	備考	評価・集計結果	前期の成果と後期への課題
1 新学習指導要領の実施に向け特色ある教育課程の開発に努めるとともに、生徒の学習意欲を高める授業を実践し、確かな学力を身に付けさせ、表現する力・伝える力を育成する。	① 生徒の授業に取り組む姿勢を改善する事により、主体性を引き出し、学力の向上につなげる。	教務課 各教科	一昨年度から「授業に主体的に取り組む」ことを質問項目とした。今年度も継続して調査をし、80%以上を目標として授業改善に努めていく。	【満足度指標】 授業に主体的に取り組めたと感じる生徒が増加している。	授業に主体的に取り組めたと感じる生徒の割合が、 A 80%以上である B 70%以上である C 60%以上である D 60%未満である	評価がC、Dの場合、授業方法及び内容を検討する。	前期、後期に全生徒を対象にアンケート調査	評価：A 肯定的回答の割合 全学年：81% 1年：87% 2年：75% 3年：80%	全学年でみると81%と高い評価であるが、2年生の評価が高くないのが気になるところである。 後期は、それぞれの学年で80%以上となるよう、教員一人ひとりが授業改善に努めなければならない。
	② 自学自習の調べ学習、対話的な学びを通して知識を関連付け、より深く学習することが可能となる授業を推進する。	教務課 各教科	知識を定着させる取組は形ができてきた。今年度は自学自習の調べ学習の質を向上させたり、生徒同士の対話を通して思考を深める授業を続け、より深い学びとなるようにしたい。	【努力指標】 自学自習の調べ学習や対話的な学習を通じて思考をより深める授業が実践できている。	自学自習の調べ学習や対話を通して思考を深める授業を実践した教員の割合が、 A 80%以上である B 70%以上である C 60%以上である D 60%未満である	評価がC、Dの場合、改善策を検討する。	前期、後期に教職員を対象にアンケート調査	評価：A 肯定的回答の割合 合計81% あてはまる：13% だいたいあてはまる：68% 余りあてはまらない：17% あてはまらない：2%	今後とも、生徒がより深い学びを得ることができるよう授業を実践し、「あてはまる」の割合を「だいたいあてはまる」の割合を上回るよう取り組みを行っていくべきである。
	③ 授業を中心に、学校生活全般を通じて、表現する力・伝える力を育成する。	教務課 各教科 各学年 生徒指導課	社会の即戦力として活躍できる人材の育成を本校では目指している。日々の授業においても表現する力・伝える力を育成することは大切である。	【満足度指標】 授業の学習活動の中で「表現する力・伝える力が向上した」と感じる生徒が増加している。	授業の学習活動の中で「表現する力・伝える力が向上した」と感じる生徒の割合が、 A 70%以上である B 60%以上である C 50%以上である D 50%未満である	評価がC、Dの場合、方法及び内容を検討する。	前期、後期に全生徒を対象にアンケート調査	評価：B 肯定的回答の割合 全学年：66% 1年：63% 2年：61% 3年：75%	3年生と比較して、1・2年生の肯定的回答の割合が低い。 特に1・2年生に対して、「表現する力・伝える力」が向上したと生徒が実感できるような授業を工夫し実践する必要がある。
	④ 各種検定試験の取組を通して学習意欲を高める。	教務課 各教科	昨年度は、3種目以上取得者数が140名と3年連続減少した。検定の新しい傾向も分析し、取得率の向上に努めたい。	【成果指標】 各学年でそれぞれの目標を持ち、資格取得の意欲が向上し、取得につながっている。	3年次の全商検定1級3種目の取得者が、 A 160人以上である B 140人以上である C 120人以上である D 120人未満である	評価がC、Dの場合、指導方法及び内容を検討する。	年間を通じて調査		新型コロナウイルス対応のため前期は休校期間があったが、課題指導、電話連絡や分散登校日等を利用した声かけ等を通じて生徒の学習意欲を維持することができた。 後期は多くの検定試験が実施されるので、引き続き指導を続け取得率を向上させたい。
	⑤ 新学習指導要領の趣旨をよく理解し、各教員が学校全体の教育活動を意識した自分なりの教育課程案をもって検討に臨む。	全教員	新指導要領の趣旨や新旧の違い等についての深い理解は、一部の教員に留まっている。	【努力指標】 新指導要領の趣旨を全教員がよく理解し、本校の新教育課程案を検討している。	「新指導要領の趣旨をよく理解し自分なりに新教育課程案を考えている」教員の割合が A 100%である B 85%以上である C 70%以上である D 70%未満である	評価がC、Dの場合対策を検討する。	前期、後期に調査	評価：C 肯定的回答の割合 83% 回答数53のうち あてはまる 6 大体あてはまる38	後期からは、令和4年度実施の新教育課程の編成に向け検討委員会も立ち上がる予定であることから、各教科会等での議論も活発となり、肯定的評価が増えるものと予想している。

令和2年度 学校経営計画に対する中間評価報告

石川県立金沢商業高等学校

No. 2

重点目標	具体的取組	主担当	現状	評価の観点	実現状況の達成度判断基準	判定基準	備考	評価・集計結果	前期の成果と後期への課題
2 ビジネスマナー教育、実践教育、国際理解教育、おもてなし教育の更なる充実に取り組む。	① 相手の顔と目を見てさわやかな、相手に伝わる挨拶を日常的に実践し、社会に貢献できる生徒の育成に取り組む。	生徒指導課 全学年	昨年度のアンケートでは、全体的に挨拶(内容)にやや課題が見られた。金商生としての自覚を喚起し、改善に努める必要がある。	【満足度指標】 相手の顔と目を見てさわやかな、相手に伝わる挨拶ができています。	年間を通して相手の目を見たさわやかな気持ちのこもった挨拶ができたと感じる生徒の割合が、 A 90%以上である B 80%以上である C 70%以上である D 70%未満である	評価がC・Dの場合、指導方法を検討	前期、後期に全生徒を対象にアンケート調査	評価：B 肯定的回答の割合 全学年88%  1年90% 2年84% 3年89%	Aの基準に達したのは1年生だけという残念な結果になった。昨年度からの課題である挨拶の内容の低下に対し、今年度は「立ち止まって相手を見て挨拶をすること」と具体化した。指導が全体にいきわたっていないようなので、今後は集会などで生徒に伝えるとともに、職員の協力も得ながら組織的に徹底できるように、指導強化を図りたい。
	② 生徒指導が主体となり、公安委員・生徒会執行部と協力しながら遅刻0の徹底を推進していく。	生徒指導課 特活課	昨年度は3月2日から休校となったが、2学期末で108日とほぼ例年同様であった。引き続き基本的生活習慣の確立の視点で目標としていきたい。	【成果指標】 年間を通じて遅刻をせず、始業時間を守っている。	遅刻0の日が年間を通じて、 A 110日以上である B 90日以上である C 70日以上である D 70日未満である	評価がC・Dの場合、指導方法を検討	年間を通じて調査		現在遅刻ゼロの日は、37日である。4・5月学校が休校となり昨年度との比較はできないが、月別で見ると6・7月は昨年より13日多い。2学期以降も「時間厳守」の大切さを啓発していきたい。
	③ マナー教育を含めた商業教育実践の貴重な場となっている金商デパートの運営に積極的に取り組む。	特活課	金商デパートでは、仕入、販売、管理・運営など、実践的なビジネス教育の場として位置付けられている。特に商業で学んだ知識や技術を実践に結び付けられるよう工夫していきたい。	【満足度指標】 金商デパートにおいて商業科で学んだ知識や技術を生かしている。	金商デパートにおいて、商業で学んだ知識や技術を生かせたと感じる生徒の割合が、 A 95%以上である B 90%以上である C 85%以上である D 85%未満である	評価がC・Dの場合、運営方法を検討	金商デパート終了時に、全生徒にアンケート調査		今年度の金商デパートは中止となったため、アンケート調査は実施できない。2学期以降は、来年度の金商デパートに向け実習方法等の検討を行いたい。
	④ 英語のコミュニケーション能力と活用の向上に取り組む。	外国語科	一昨年度より、従来の全商英検の取得に加え、STEP英検の取得を指標として掲げた。今年度もこの取組を継続し、補習体制の充実などを通して、より多くの検定取得につながるよう努めていきたい。	【成果指標】 英語の基礎的な活用の向上を測る目安として、STEP英検など、より上位の検定の取得を目指す。	STEP英検準2級以上(または全商英検1級)を取得した人数が前年比で、 A 20%以上向上した B 10%以上向上した C 前年度と同等である。 D 前年度を下回った	評価がC、Dの場合、英語学習が必要であることを認識させるために講話等の内容や機会を検討する。	年度末にSTEP英検準2級以上、および全商英検1級の合格者数を調査		今年度から、STEP英検により重点を移していくため、全商英検の9月は希望者のみの受験とした(12月は全員受験)。結果的に第1回STEP英検の受験者数が増加した。後は結果を残せるかどうかが後期の課題である。

令和2年度 学校経営計画に対する中間評価報告

石川県立金沢商業高等学校

No. 3

重点目標	具体的取組	主担当	現状	評価の観点	実現状況の達成度判断基準	判定基準	備考	評価・集計結果	前期の成果と後期への課題
3 生徒の希望する進路実現へ向けて、各学年に応じた計画的なキャリア教育に取り組む。	① 就職希望者に対して、企業ならびに同窓生と連携を深め、各種ガイダンス機能の充実と希望企業への実践的な面接指導を実施し、進路実現を図る。	進路指導課 (就職) 3学年	昨年まで売り手市場が続き希望する職種を選択できていることから、昨年度はB評価であったが、今年度は雇用状況の悪化が予想される。進路選択に向けたガイダンスや面接指導等の充実をさらに進めていきたい。	【成果指標】 就職希望者において、進路実現に向けて具体的な取り組みができていく。	就職希望者において、ガイダンスや面接指導を通じて希望の職種・業種への進路実現を達成できたという生徒が、  A 95%である B 90%以上である C 85%以上である D 85%未満である	C・Dの場合、取り組みを検討	前期、後期に、3年生就職希望の生徒を対象にアンケート調査	評価：B  肯定的回答の割合 3年 91%	3月～5月まで休校が続き、各種ガイダンスも見送りとなったが、企業調べの課題や履歴書指導を通して業種や職種への理解を深めてきた。7月からの求人受付状況は昨年度より約3割減となっているが、8月以降の応募前訪問や面接指導等の充実を図り、希望の職種・業種への進路実現を図っていきたい。
	② 進学希望者に対して、補習やガイダンスの指導・働きかけを工夫、志望分野・志望校への進学意識を早期より高める。	進路指導課 (進学) 2学年 3学年	昨年度の評価は3年生が84%であったが2年生は49%となっており、全体として65%と低い数値となった。今年度は2年生に対する取組をまず重点的に行うこととする。就職と比較して早期からの準備が必要な分野も多く、正確な情報を伝達する体制の改善に努めていきたい。	【成果指標】 進学希望者において、長期的な視点を持って、受験勉強に取り組む、学力向上に努めている。	進学希望者において、長期的な視点を持って、受験勉強に取り組む、学力向上を向上させることができたと答えた生徒が、  A 75%以上である B 70%以上である C 65%以上である D 65%未満である	C・Dの場合、取り組みを検討	前期、後期に、2・3年生進学希望の生徒を対象にアンケート調査	肯定的評価  2年 68.2% C 3年 84.6% A	3年生については、複数回にわたる校内の進学ガイダンスの結果として進学情報の満足度が高まったことや指導の徹底によるものと思われる。2年生については、三密回避の観点から進学関係の行事が中止となったことが大きいと思われる。今後の状況をみながら、今年度中に進学関係の行事を組み直し入れていくこととした。
	③ 1年生に対して進路ガイダンスを計画的に行い、進路実現に向けた取り組みを充実させる。	進路指導課 第1学年	昨年度の評価はB評価であったが、早い段階からコース選択等のガイダンスを充実させ、希望進路への具体的な準備を進めると同時に職業観の育成を図っていききたい。	【成果指標】 1年生において、希望する進路に向けた具体的な進路希望を設定することができている。	進路の実現に向けて、具体的な進路希望が設定できたと答えた生徒が、  A 80%以上である B 70%以上である C 60%以上である D 60%未満である	C・Dの場合、取り組みを検討	前期、後期に、1年生の生徒対象にアンケートを調査	評価：B  肯定的回答の割合 1年 77%	科目履修を含めたコース選択の前に進路説明会や分野別ガイダンスを実施することができたことは大きかった。ただ、後期に向けては進路行事が少なく、具体的な進路や職業観を図っていくことが課題となっている。 今後は、LHや総合的な探究の時間、教科指導を通して、進路実現に向けた取り組みの充実を図っていききたい。

令和2年度 学校経営計画に対する中間評価報告

重点目標	具体的取組	主担当	現状	評価の観点	実現状況の達成度判断基準	判定基準	備考	評価・集計結果	前期の成果と後期への課題
4 心身の健康と豊かな人間性の育成に向けて、部活動、特別活動等の更なる充実に取り組む。	① 運動部の県大会において、優勝を目指す。	特活課	昨年度は野球部等の活躍もあり目標を達成できたが、厳しい状況の部活動もある。今年度もこの成績を維持していきたい。	【成果指標】 ベスト4以上の部活動が、目標を上回ることができたか。	県大会でベスト4以上の運動部が、 A 9部以上である B 8部である C 7部である D 7部未満である	評価がC・Dの場合、指導を検討	大会報告書による調査	/	新型コロナウイルス感染拡大の影響により各大会が中止となり、前期の成績がない状態である。 後期には新人大会の開催が予定されているので、目標以上の成績に期待したい。
	② 文化部・商業部の県大会（総文・新人）において団体優勝のべ4競技以上を目指す。	特活課 商業科	全国的に活躍している珠算・電卓競技など商業部を中心にかるた部や吹奏楽部などが全国大会に出場した。今後もこの成績を継続していきたい。	【成果指標】 団体での優勝が、目標を上回ることができたか。	県大会（総文および新人）で団体優勝をする競技が、 A のべ5競技以上である B のべ4競技以上である C のべ3競技である D のべ2競技以下である	評価がC・Dの場合、指導を検討	大会報告書による調査		
	③ 各種委員会・生徒会活動及びボランティア活動等の充実、活性化を目指す。	特活課	部活動単位など既存の学校組織でボランティアに取り組む事例はあるものの、個人的な活動は弱い。学校全体としての啓発活動が必要。	【成果指標】 各種委員会・生徒会活動及びボランティア活動に自主的に取り組めたか。	各種委員会・生徒会活動及びボランティア活動に自主的に取り組んだ生徒の割合が、 A 80%以上である B 70%以上である C 60%以上である D 60%未満である	評価がC・Dの場合、活動内容や取り組み方を検討	前期、後期に全生徒を対象にアンケート調査	評価：B 肯定的回答の割合 全学年 75%	新型コロナウイルス感染拡大の影響により、前期の前半は学校行事や生徒会活動等がほぼ中止となった。 学校再開後は、ボランティア活動については、幾つかの部活動で実施しており、後期も引き続きお願いしていきたい。
	④ 校舎内の清掃をきちんと行い、節電・節水に努め、ゴミの分別をきちんと行う意識を全生徒が持ち、自主的に行動することを目指す。	保健課	校内美化については、概ね良好な状態を保っているが、節電についてはまだまだ意識は低く、一層の改善が必要。	【成果指標】 美化委員会を中心に清潔な環境の維持に努め、清掃・節電・節水やゴミ分別の意識を高められたか。	清掃をきちんと行い、節電・節水に努め、ゴミの分別をしっかりとできる生徒の割合が、 A 98%以上である B 95%以上である C 90%以上である D 90%未満である	評価がC・Dの場合、指導を検討	前期、後期に全生徒を対象にアンケート調査	評価：A 肯定的回答の割合 全学年 95% 1年 97% 2年 94% 3年 96%	今年度から、ごみの収集を水曜日と金曜日に変更した。それによって、エコセンターの利用を清潔かつスムーズに行うことができるようになった。 今後は、新型コロナウイルス感染防止対策の徹底をさらに図っていく。
	⑤ 「石川県いじめ防止基本方針」に則り、いじめを起こさない学校づくりに努める。	全教職員	いじめに関しては、調査に載ってくる事案のみならず、潜在的に重大事に至るものを事前に察知することが大切である。学年、相談課、保健課等関係機関の連携を図り、未然防止に努めていきたい。	【努力指標】 いじめの未然防止に向け、校内巡視や情報の交換・共有を意識的に行っている。	いじめの未然防止に向けて、意識的に行動をしている教員の割合が、 A 90%以上である B 80%以上である C 70%以上である D 70%未満である	評価がC・Dの場合、啓発活動などの改善策を実施	前期、後期に全教員を対象にアンケート調査	評価A 肯定的回答の割合 100% 回答54人中 あてはまる 26人 大体あてはまる 28人	今後も、いろいろな意味で風通しのよい学校づくりに努め、いじめの早期発見と早期対応につなげたい。

令和2年度 学校経営計画に対する中間評価報告

石川県立金沢商業高等学校

No. 5

重点目標	具体的取組	主担当	現状	評価の観点	実現状況の達成度判断基準	判定基準	備考	評価・集計結果	前期の成果と後期への課題
5 教職員の多忙化改善に向けて、業務の改善に取り組む。	働き方改革の趣旨に則り、業務改善に努め、教職員の残業時間の解消に繋げる。	全教職員	80時間を超える残業を行っている教員が、業務繁忙時期によって複数名見られる。今年度も働き方改革を進め改善に努めたい。	【成果指標】 80時間を超える残業を行っている教職員の数の削減	年間を平均して、1月当たり80時間以上を超える残業を行っている教員の人数が、 A 0人ある B 1人である C 2人である D 3人以上いる	評価がA以外の場合、対策を検討	毎月の残業記録の集計結果	評価：C 残業80時間超 4～6月 0人 7月 5人 4～7月平均 1.25人  個人の月別平均残業時間で80時間超は	7月中は求人票処理のため、特定の分掌に負担が大きかった。 今年度は「退校時間の延長申請書」を導入した。退校時間を意識した働き方、メリハリをつけた働き方を今後も推進していきたい。